

長崎県病害虫防除所長

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
普通期水稻	いもち病（穂いもち） 紋枯病 縞葉枯病 トビイロウンカ（注意報第2号） コブノメイガ 穂吸汁性カメムシ類 （防除情報第10号）	- 並 やや少 多 やや少 やや多	並 並 やや少 多 並 やや多
大豆	ハスモンヨトウ	やや少	並
いちご （育苗床）	うどんこ病 炭疽病（ <i>G.cingulata</i> ） 輪斑病 ハダニ類 アブラムシ類 ハスモンヨトウ	並 並 多 並 少 少	並 やや多 多 並 少 やや少
アスパラガス	アザミウマ類	やや少	やや少
かんきつ	かいよう病 黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ	やや少 やや多 やや多 やや少	やや少 やや多 やや多 やや少
びわ	がんしゅ病 ナシヒメシンクイ	並 やや少	並 やや少
果樹共通	カメムシ類（技術情報第2号）	並	並
茶	炭疽病 チャノキイロアザミウマ チャノコカクモンハマキ チャノホソガ カンザワハダニ チャノミドリヒメヨコバイ クワシロカイガラムシ	やや多 並 やや多 並 やや少 やや多 やや多	やや多 並 やや多 並 やや少 やや多 やや多

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

普通期水稻

1. いもち病（穂いもち）

（1）予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(89筆)の結果、葉いもちの発病株率は0.5%(0.6%)、発生圃場率は10.1%(11.4%)であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、葉いもちの発生を認めなかった(発病株率 0.1%)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 葉いもちの発生が認められる圃場では穂ばらみ期と穂揃期の2回防除を行う。

イ 追肥を行う場合は、過剰にならないよう適正量を施肥する。

2. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(89筆)の結果、発病株率は1.5%(1.1%)、発生圃場率は16.9%(19.6%)であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発病株率 6.1%)。

3. 縞葉枯病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(89筆)の結果、発病株率は0.0%(0.3%)、発生圃場率は4.5%(26.6%)であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発病株率 0.0%)。

ウ 8月上旬の巡回調査(89筆)の結果、ヒメトビウンカの株当たり虫数は0.1頭(0.3頭)、発生圃場率は36.0%(60.8%)であった。

エ 8月3半旬の県予察圃場(諫早市、普通期、無防除)調査の結果、株当たり虫数は0.02頭(0.1頭)、寄生株率は2.0%(10.5%)であった。

4. トビイロウンカ

平成24年8月17日付け**病害虫発生予察注意報第2号**による。

5. コブノメイガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(89筆)の結果、食害株率は12.0%(11.2%)、発生圃場率は44.9%(79.9%)であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場(無防除)調査の結果、食害株率は18.0%(22.8%)であった。

ウ 向こう1か月の気温は平年並か高い見込みであり本虫の発生に好適である。

6. 穂吸汁性カメムシ類

平成24年8月17日付け**病害虫発生予察防除情報第10号**による。

大豆

1. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(15筆)の結果、幼虫の寄生株率は1.3%(6.4%)、株当たり虫数は0.0頭(0.8頭)、白変葉発生圃場率は13.3%(56.3%)であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(幼虫の寄生株率3.4%、株当たり虫数0.3頭)。

ウ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、やや少ない状況で推移している(図)。

エ 向こう1か月の気温は平年並が高い見込みであり本虫の発生に好適である。

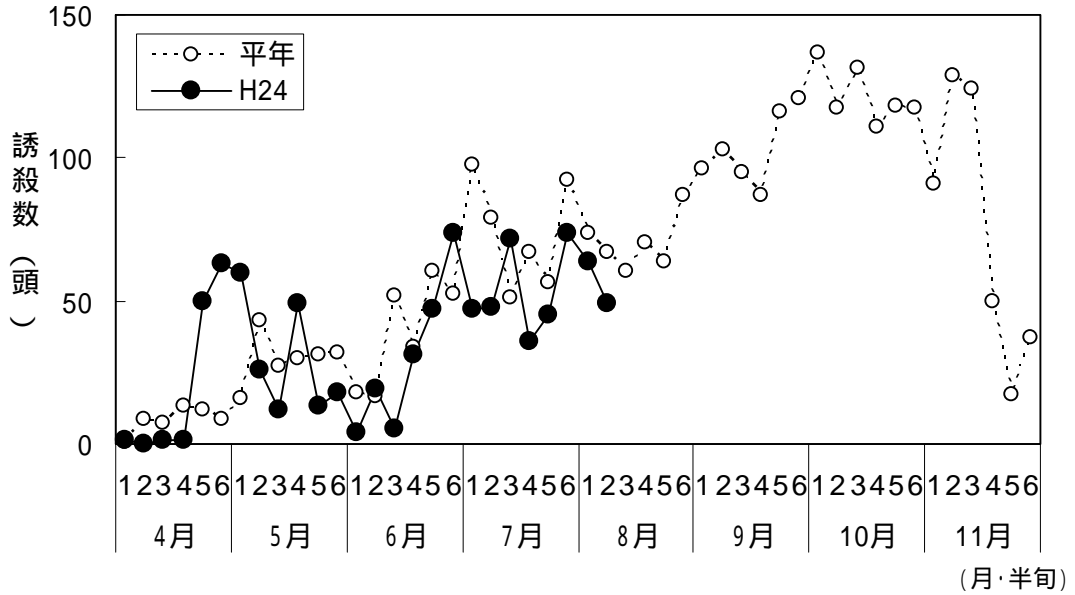


図 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越町)
平年:H14~23年の平均値(最大・最小値除く)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 圃場の見回りを徹底し、白変葉が散見され始めたら早急に防除を行う。

イ 老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので若齢幼虫期に薬剤散布する。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病株率は0.1%(0.2%)、発生圃場率は3.0%(4.1%)であった。

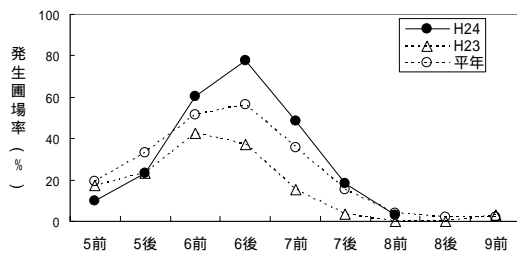


図1 うどんこ病 発生圃場率の推移

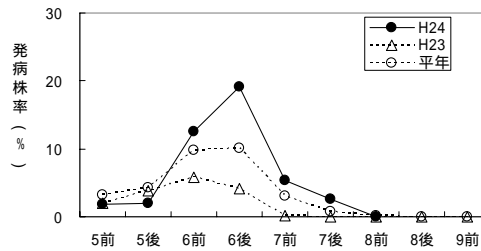


図2 うどんこ病 発病株率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 薬剤散布は、薬液が葉裏、葉柄に十分かかるように散布する。
- イ 除去した茎葉は、圃場内やその周辺に放置しない。
- ウ 薬剤耐性菌発達防止のため、同一系統の薬剤は連用しない。
- エ 炭疽病対策として、雨よけ育苗をおこなっている場合は、うどんこ病が発生しやすいので、注意する。
- オ 夜冷・株冷処理を行なう場合は、入庫前の防除を徹底する。
- カ 本年は、6～7月に発生が多かったことから、定植前までの防除を徹底する。

2. 炭疽病 (*G.cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

- ア 8月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病株率は0.1%(0.3%)、発生圃場率は12.1%(10.7%)であった。
- イ 病害虫防除員の報告によると、並～やや多の発生であり、一部多発圃場がみられている。
- ウ 8月13～14日にまとまった降雨があり、病原菌の飛散、感染に好適であった。

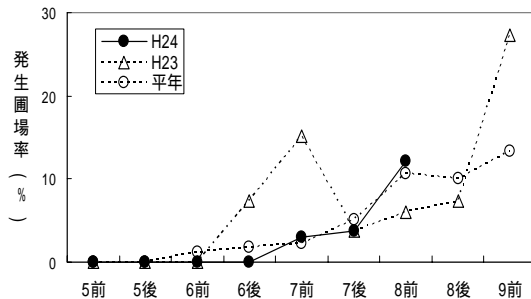


図1 炭そ病(*G.cingulata*) 発生圃場率の推移

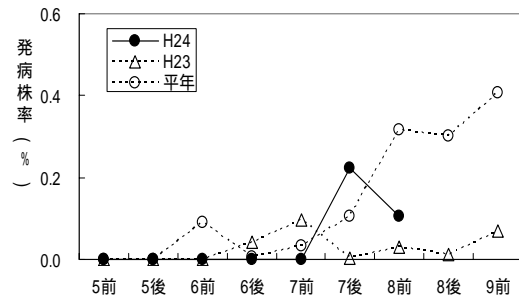


図2 炭そ病(*G.cingulata*) 発病株率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 圃場の見回りを徹底し、発病した子苗およびその周辺の株は速やかに処分し、本圃へ持込まない。除去した発病株や茎葉は、圃場内やその周辺に放置しない。
- イ 葉の展開間隔にあわせて定期的に薬剤防除する。特に強雨、台風などの前後や下葉除去など株を傷つけるような作業後は重点的に行う。
- ウ 育苗床が多湿にならないように、連続した長時間のかん水はしない。密植を避け、排水対策を確実に進行。また、除草を徹底するなど、環境整備に努める。
- エ 夜冷・株冷処理を行なう場合は、入庫前の抜き取り及び薬剤防除を徹底する。

3. 輪斑病

(1) 予報内容

発生程度 多

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病株率は17.0%(7.6%)、発生圃場率は69.7%(40.3%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 病葉は伝染源となるため栽培上支障のない範囲で除去する。また、除去したり病葉は圃場周辺に放置しない。
- イ 肥料不足は発病を助長するので留意する。
- ウ 過湿条件は発病を助長するので、密植を避け、通風を良くする。

4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(33筆)の結果、寄生株率は2.6%(3.5%)、発生圃場率は39.4%(24.7%)であった。

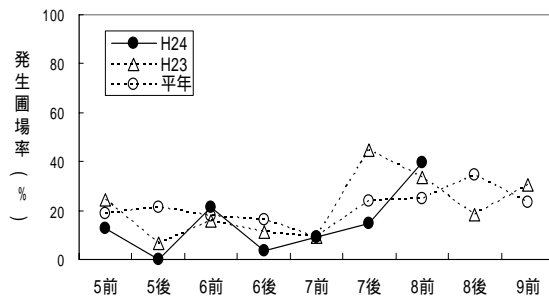


図5 ハダニ類 発生圃場率の推移

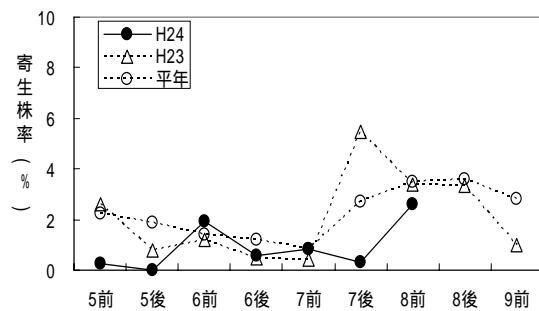


図6 ハダニ類 寄生株率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 多発生後の防除は困難となるので、早期発見、早期防除に努め、本圃へ持ちこまないようにする。
- イ 下葉の裏に多く寄生するので、薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。
- ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。
- エ 本圃での天敵放飼を予定している場合は、薬剤によっては長期間影響を与えるものがあるので、使用時期に注意する。

5. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(33筆)の結果、寄生株率は0.3%(0.6%)、発生圃場率は6.1%(10.6%)であった。

6. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

- ア 8月上旬の巡回調査(33筆)の結果、食害株率は0.4%(1.7%)、発生圃場率は15.2%(27.9%)であった。
- イ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、平年よりやや少ない状況で推移している(大豆の項参照)。
- ウ 向こう1か月の気温は平年並か高い見込みであり本虫の発生に好適である。

アスパラガス

1. アザミウマ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(9筆)の結果、払い落とし虫数(10.5cm×22.5cmの白色板に5回×10ヶ所)は2.9頭(過去5カ年平均13.7頭)、発生圃場率は55.6%(過去5カ年平均75.6%)であった。

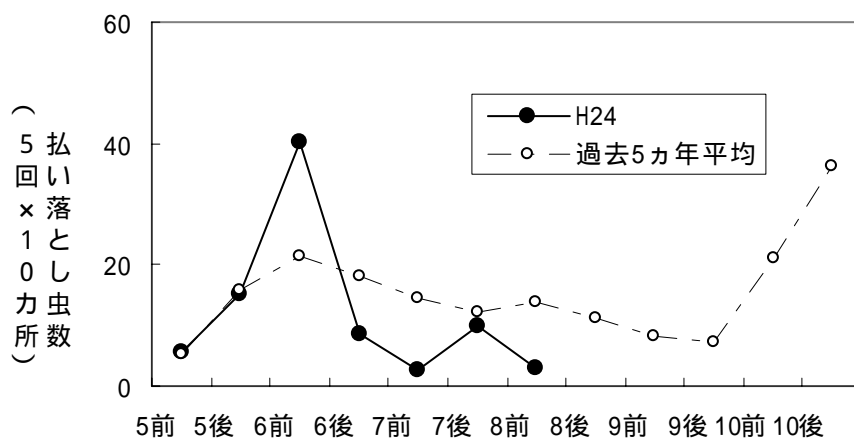


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移 (巡回調査)
払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

かんきつ

1. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(36筆)の結果、発病葉率は0.1%(0.5%)、発生圃場率は8.3%(21.2%)、発病果率は0.0%(0.4%)、発生圃場率は2.8%(9.6%)であった。

2. 黒点病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(36筆)の結果、発病果率は11.1%(5.2%)、発生圃場率は69.4%(35.3%)であった。

イ 病害虫防除員の報告によると、平年よりやや多～並の発生である。

(3) 防除上注意すべき事項

枯れ枝が伝染源となるので、管理作業と併せて剪除する。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は19.2%(12.5%)、発生圃場率は50.0%(58.0%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 盛夏期を過ぎて気温が低下してくると発生が増加するので、発生初期に防除する。

イ 薬剤感受性の低下を防ぐために、同一薬剤は連用しない。

4. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(36筆)の結果、果梗部の被害果率は0.0%(0.8%)、発生圃場率は2.8%(19.2%)、果頂部の被害は認めなかった(被害果率0.8%、発生圃場率13.1%)。

イ 黄色粘着トラップ（諫早市）による誘殺量は、平年よりやや少なく推移している（図）。

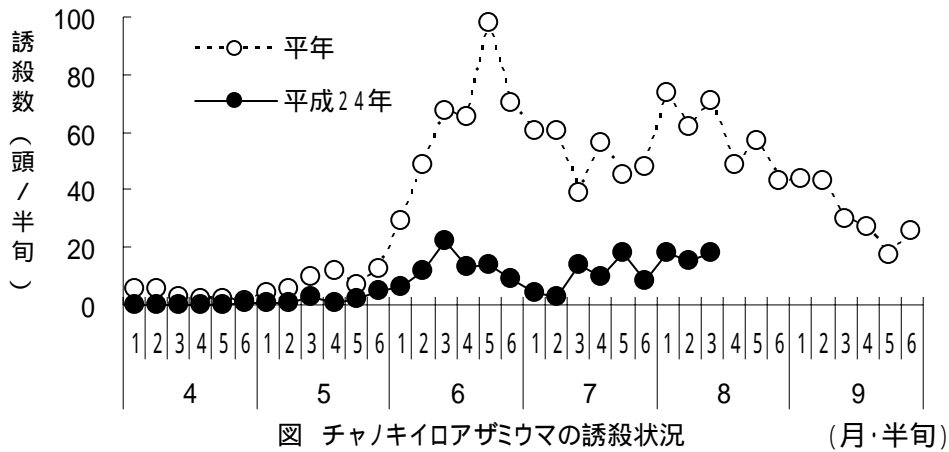


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況（諫早市小船越町：黄色粘着トラップ）

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 下表の予測発生ピーク日5日前から発生ピーク日に薬剤散布をすると防除効果が高い。
- イ ただし、発生が多い園では、1果当たりの寄生虫数が0.3～0.5頭に達する前に防除を行う。
- ウ 茶、かき、ぶどう、イヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

表 チャノキイロアザミウマ発生予測プログラムによる成虫の予測発生ピーク日

地点	長崎	佐世保	大瀬戸	口之津	平戸	長崎 (平年値)
第5世代	8/5	8/5	8/15	8/6	8/19	8/5
" (前年)	8/8	8/8	8/20	8/8	8/22	-
第6世代	8/22	8/22	9/2	8/23	9/7	8/22
" (前年)	8/26	8/26	9/8	8/27	9/11	-
標高(m)	27	4	43	10	58	27

注1：気温データは各地域のアメダスデータを使用した（表中の地名：アメダス地点）。
 注2：平成24年8月15日までは実測値を使用し、8月16日以降のデータは平年値を使用した。
 注3：同一地区内でも、山間部では予測発生ピーク日が異なる場合があるので注意する。また、降雨等により予測日が変動する場合がある。

びわ

1. がんしゅ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査（9筆）の結果、発病枝葉率は4.0%（4.5%）、発生圃場率は66.7%（56.3%）であった。

2. ナシヒメシクイ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(9筆)の結果、発生を認めなかった(寄生枝葉率0.1%、発生圃場率6.3%)。

イ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、7月5半旬以降は平年より少なく推移している(図)。

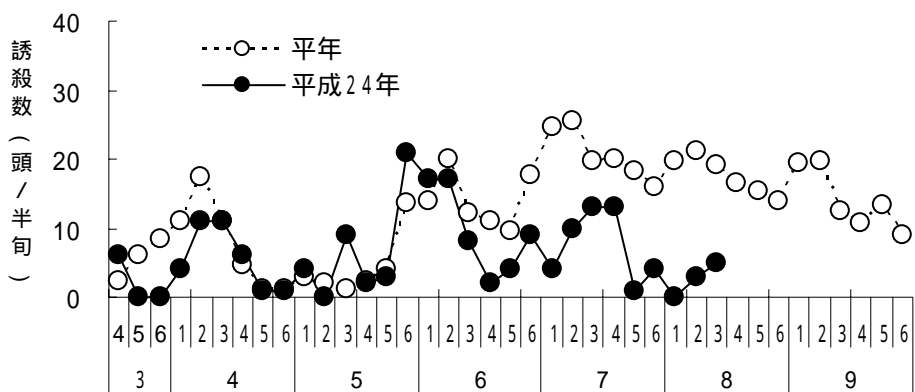


図 ナシヒメシンクイの誘殺状況 (諫早市小船越町:フェロモントラップ)

(3) 防除上注意すべき事項

剪定跡に食入しやすいので、剪定や芽かき後には必ず防除する。

果樹共通

1. カメムシ類

平成24年8月8日付け病害虫発生予察技術情報第2号による。

なお、その後の発生は以下のとおりである。

ア 予察灯及びフェロモントラップにおける誘殺状況は概ね平年並で推移しているが、一部で誘殺量の増加が見られる(図)。

イ 8月上旬の巡回調査(かんきつ、なし)の結果、発生を認めなかった。

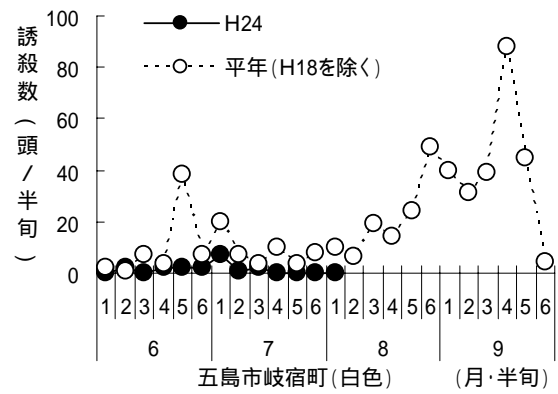
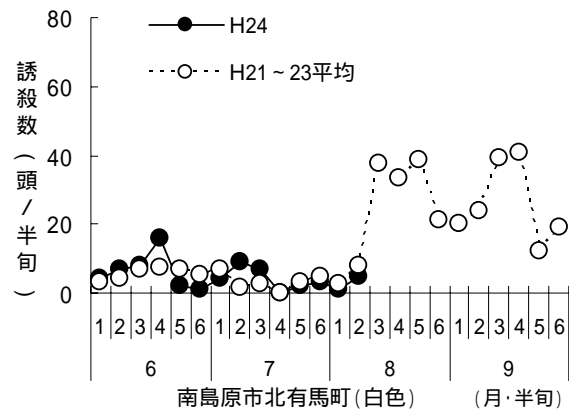
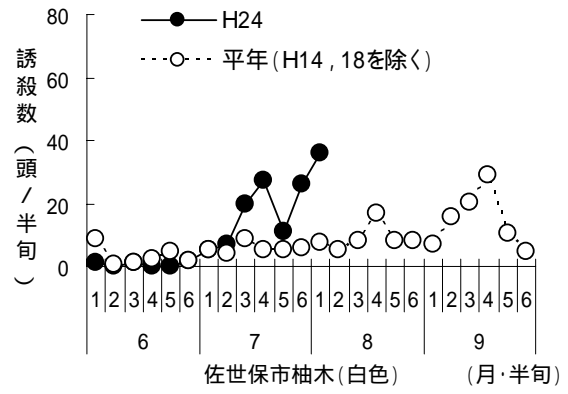
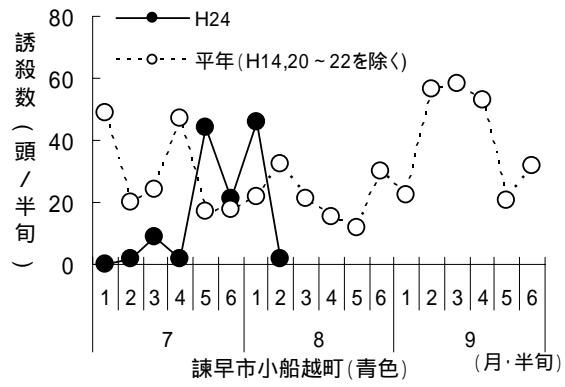


図 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況 (予察灯)

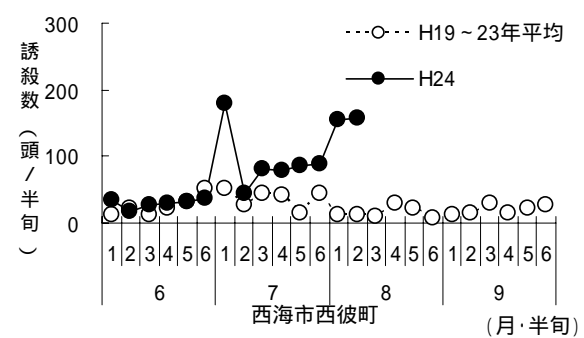
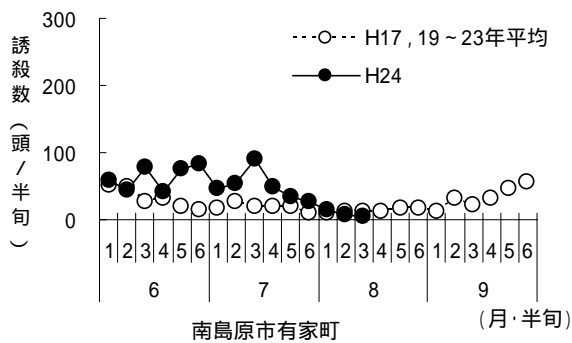
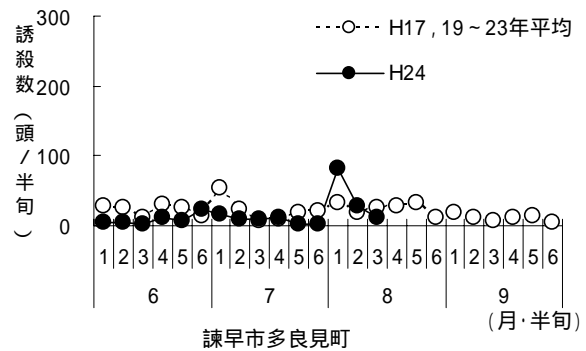
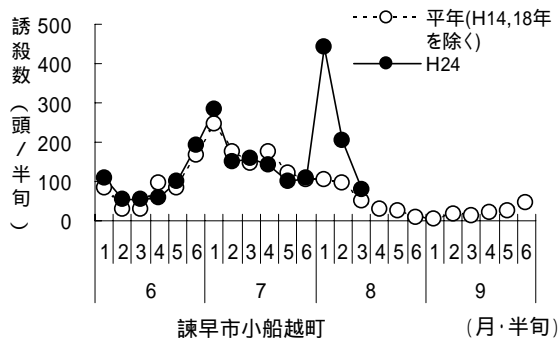


図 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況 (黄色コガネコール)

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡あたり発病葉数は7.2枚(2.5枚)、発生圃場率は70.0%(47.5%)で、一部多発圃場が見られた。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤耐性菌が発生しやすいので、同一薬剤を連用しない。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は13.1頭(19.8頭)、発生圃場率は90.0%(78.8%)であった。

3. チャノコカクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たり巻葉数は0.1枚(0.1枚)、発生圃場率は10.0%(17.7%)であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は平年より多く推移している(図)。

(3) 防除上注意すべき事項

発蛾最盛期から7~10日後に薬剤散布すると効果が高い。

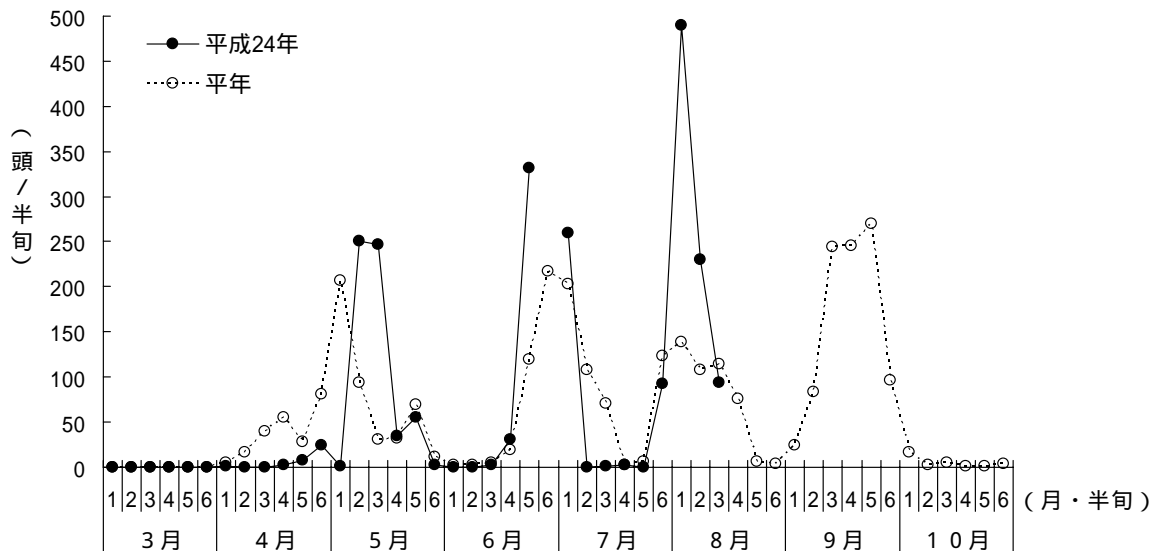


図 チャノコカクモンハマキの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)

注: 6月6半旬は欠測

4. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たり巻葉数は0.0枚(0.1枚)、発生圃場率は15.0%(15.5%)であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量（農林技術開発センター茶業研究室調査）は平年並で推移している（図）。

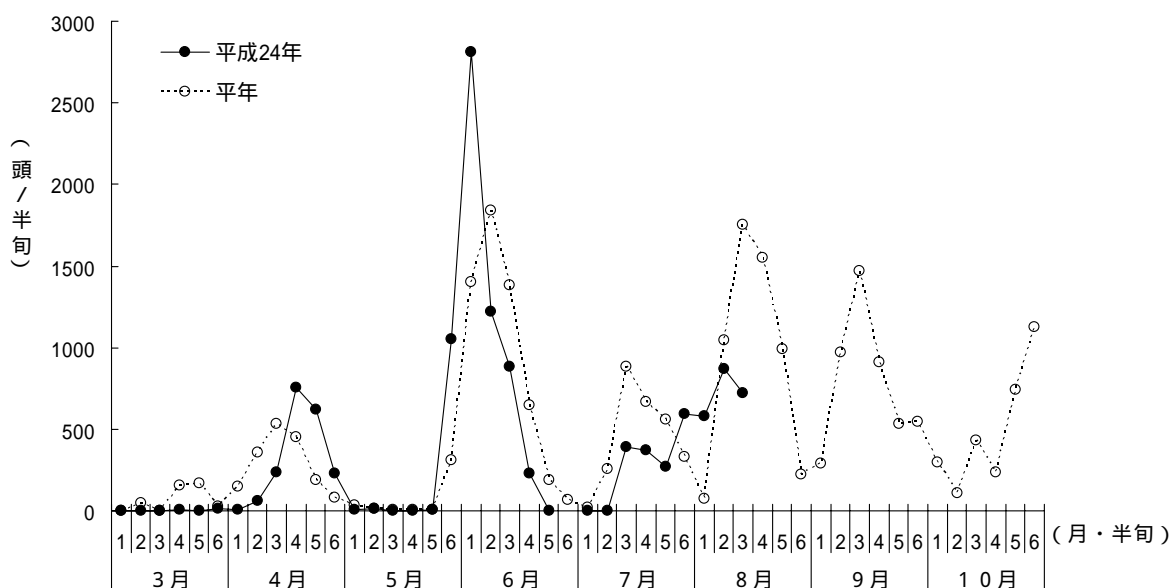


図 チャノホソガの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

注：6月6半旬は欠測

5. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査（20筆）の結果、発生を認めなかった（寄生葉率0.6%、発生圃場率13.2%）。

6. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査（20筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は3.5頭（2.2頭）、発生圃場率は80.0%（49.5%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤は連用しない。

7. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査（20筆）の結果、寄生株率は20.3%（5.5%）、発生圃場率は45.0%（33.0%）で、一部多発圃場が見られた。

【参考】

気象 (平成24年8月17日発表 1か月予報 福岡管区气象台)

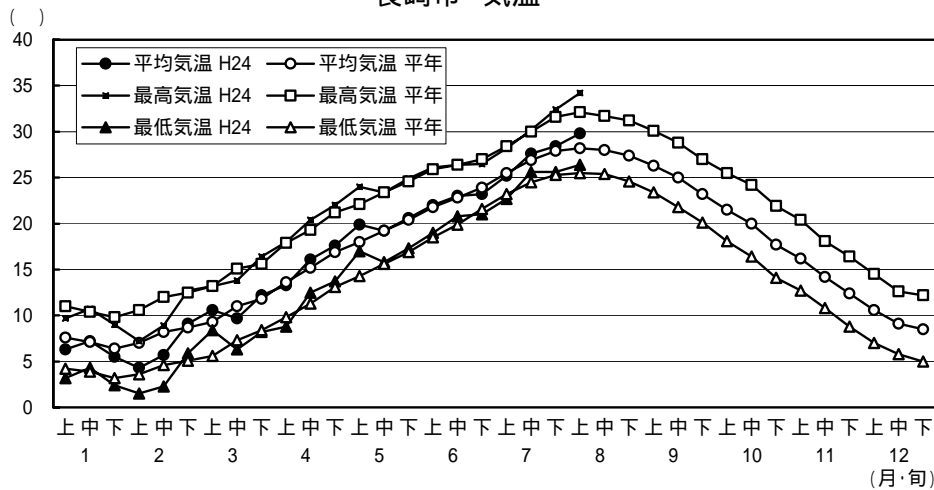
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	40	40
降水量	40	30	30
日照時間	30	30	40

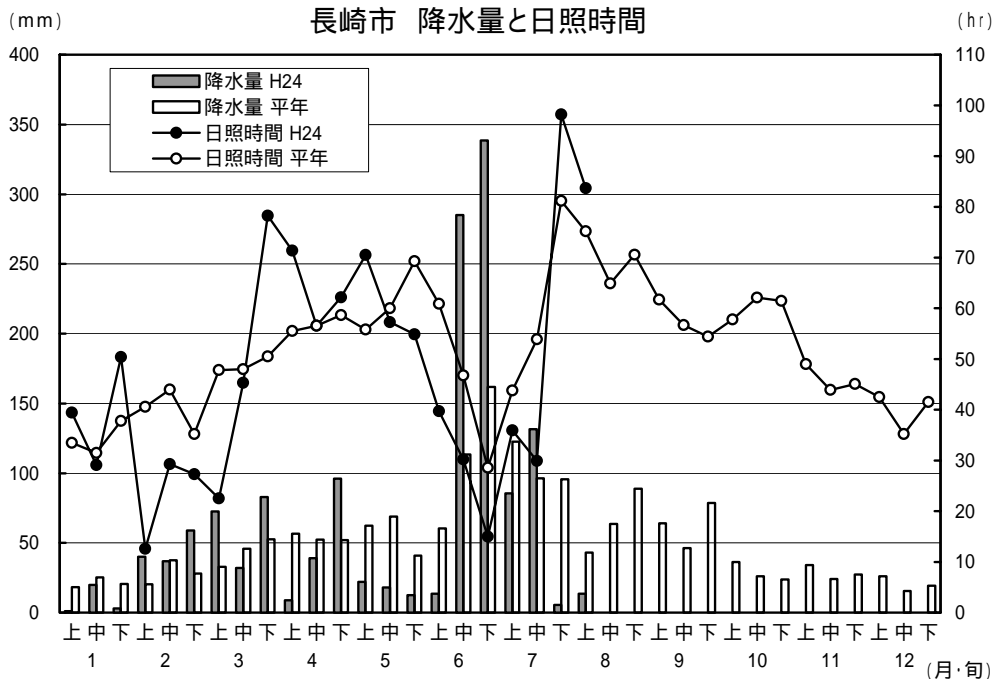
予報対象地域：九州北部地域

平成24年の気象経過 (長崎海洋气象台)

長崎市 気温



長崎市 降水量と日照時間



6月1日から8月31日までの3ヶ月間を「農薬危害防止期間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。

病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnpn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027